

# 29年目の町名復活「主計町」

平成11年10月1日、尾張町二丁目の一部が、旧町名「主計町」として復活した。主計町は、この地に屋敷があった加賀藩士富田主計重家(とだかずえしげい)の名にちなんで付けられた町名で、浅野川沿いに昔ながらの格子の風情を見せる茶屋街。

復活当日の1日には、山出保金沢市長らによる「歴史のまちしるべ」標柱の除幕式が行われ、掛布の下から「旧」の文字が消えた「主計町」の石柱があらわれると、集まった60人ほどの住民からは拍手がわいた。その後主計町料亭組合事務所にて記念式典がおこなわれ、山出市長の挨拶の後、主計町に住むアメリカ人漫画家クリフトン・カーフ氏らが町名復活を祝った。続いて、主計町芸妓衆が、平成の長唄「金沢道通」を披露。このほかにも、1日の夕刻から3日間地元元々が主催する「町名復活祭り」が行われ、太郎、金城樓、みふくの各料亭で食談が開催されるなど、様々な催しが続いた。

市内各地の旧町名は昭和37年の「住居表示に関する法律」で改められており、主計町の復活は29年ぶりのこと。旧町名が復活するのは、全国でもはじめてのケースという。ひきつづいて平成

12年4月1日には、兼六園に近い「旧石引町」、「旧飛梅町」が復活する。

## 主計町に住んで

僕が初めて日本に来たのは昭和21年、兵隊として佐世保で1年間勤務した。故郷のミネソタは平地なので、日本に来て初めて山や、川や、段々畑を目にしたが、その色彩は今でも覚えている。それほど印象が強烈だった。

主計町を初めて訪れた時も、やはり強い印象を受けた。それは、建物が昔のままの姿で、人がみな一緒に生きているということだ。夜になれば、太鼓や三味線の音も聞こえてくる。本当の日本の心がここには息づいていると思う。どの国を旅行しても、その国の「形」が分かるものだ。ところが、今の日本には「形」がなくなってしまった。服装一つをとっても、誰もが外国の服を着ていて、「日本人」にはなかなか出会えない。地域には特徴というものが必要だ。僕は、この主計町の建物の外観が格子と瓦で統一されて、全て昔のようになればと思っている。街の雰囲気とは住む人の心から生まれるものだ。人々が一緒に暮らし、心から街全体が一つの家になった時、街は形を持ち、評判も自然に生じることと思う。僕たちはみな「主計町パンザイ」という同じ心を持っている。この街と、そこに暮らす人々が僕は大変好きだ。実はここに引っ越してきた時に、主計町という名が気に入って、「クリフトン・カーフ絵描き主計町」という名刺を作った。やっとこの名刺が使えるようになって、とても嬉しく思っている。



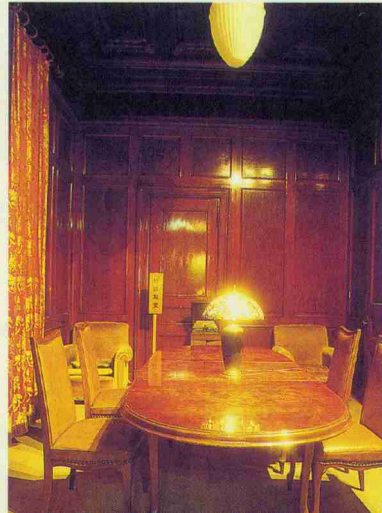
主計町復活記念式

**クリフトン・カーフ**  
1927年アメリカ、ミネソタ州ダグラス市生まれ。1955年以来日本に在住し、数々の著名な展覧会に作品を出品。5年前に京都から主計町に移住し、浅野川沿いの茶屋をアトリエにして墨絵や九谷の作品を制作している。



### ③町民文化館

尾張町の町民文化館は、かつての金沢貯蓄銀行です。明治40年に建てられました。外壁は漆黒の土蔵造りで、通りでもひときわ目を引きまします。内部には、銀行窓口や頭取室が残されており、明治の昔を忍ばせてくれます。



### ①駅通り線

金沢駅の東口から武蔵ヶ辻へと伸びる駅通り線には、戸室石を使ったせせらぎが作られています。広い歩道をぶらぶらと歩くと、近代的な景観の中で、自然のもつ穏やかさと安らぎを感じることができます。



### ②近江町市場

武蔵ヶ辻の近江町市場は、江戸中期に前田藩の御膳所に指定され、以来270年以上金沢の人々に親しまれてきました。迷路のような狭い通路を歩けば、日本海の魚や地元の野菜、作りたての惣菜などに、思わず足が止まります。



### 「ふらっとバス」とは

ふらっとバス・此花ルートは、15分間隔で金沢駅から武蔵ヶ辻・尾張町をまわる循環ルートを行っています。「フラット」の名のとおり段差のないノンステップバスなので、乗り降りも気軽。運賃は1回100円です。

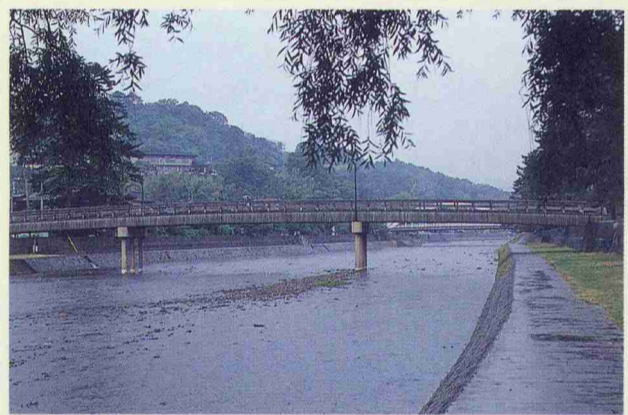


### ⑨彦三緑地

彦三緑地は、藩士遠田勘右衛門の屋敷跡です。こじんまりとした園内は緑にあふれ、なかでも初夏のツツジと冬のボタンの季節には、かぐわしい花の香にあふれます。四季折々の花を訪ねて、立ちよってみて下さい。

### ⑧旧母衣町

藩政時代、加賀藩の下級武士だった「母衣衆」の組地があったことが町名の由来です。こうした旧町名の由来を記した標柱を訪ねて歩くのも楽しいものです。



### ⑦梅ノ橋

梅ノ橋は、明治43年に架けられ、昭和28年に一度流出しました。現在の橋は、昭和53年に復元されたものです。歩行者専用のこの橋は、浅野川周辺に情緒をよく溶けこんでいます。

### ⑥泉鏡花記念館

文豪・泉鏡花は、明治から昭和にかけて、幻想的で情緒あふれる数々の作品を発表しました。この記念館はその生家跡にあり、泉鏡花の作品世界を多面的に紹介しています。文学にとどまらず、演劇や映画の世界にまで広がる鏡花ワールドにあなたも引きこまれてみませんか。



石川近代文学館提供

### ④寺島蔵人邸

寺島蔵人は、加賀藩の中級武士。画人としても知られています。屋敷の家屋や土塀は藩政時代のもので、邸内でお茶をいただくこともできます。春には樹齢300年をこえるドウダンツツジが見事です。



### ⑤旧新町

「新町」の名は、尾張町の拡大にともなって新しく町立された地域であることを示しています。浅野川に近く、金沢の商業と町人文化をにぎわしました。家々の外壁に紅殻や黒の粋な彩りが見られるのも、独特の風情です。

